

令和元年度 地域力向上事業 ひとりのできる1年生 おおすみくん家 キッズクラブ①②

- 1 趣 旨 小学1年生の子供たちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、人と関わる力や基本的生活習慣を身に付けるとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 第1回目 令和元年6月15日(土)～16日(日) 1泊2日
第2回目 令和2年1月25日(土)～26日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学1年生
- 4 募集定員 32人(申込者84人)
- 5 参加者 1回目:31人 2回目:25人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター職員(1回目)
- 7 活動場所 国立大隅青少年自然の家
- 8 日程と主な活動



(1) 1回目

6月15日(土)		6月16日(日)	
10:00	受付	6:00	起床
10:30	出会いのつどい オリエンテーション	7:00	朝のつどい
11:00	チャレンジ1「ふれあいタイム」	7:30	朝食<レストラン>
12:00	昼食<レストラン>	8:15	片付け
13:00	荷物の整理	8:40	着替え
14:00	チャレンジ2「自然の家探検」 ・所内探検,草スキー,ヤシャブー作り	9:00	チャレンジ4「キッズオリンピック」 ①空き缶積み ②割りばしダーツ 「フライングディスクゴルフ」
17:00	夕べのつどい	12:00	昼食<お弁当>
18:00	夕食<レストラン>	12:50	ふり返りタイム
19:00	チャレンジ3「お風呂に入ろう」	13:20	別れのつどい
20:00	紙芝居・絵本の読み聞かせ	13:50	解散
21:00	就寝		

(2) 2回目

1月25日(土)		1月26日(日)	
10:00	受付	6:30	起床
10:20	出会いのつどい オリエンテーション	7:00	朝のつどい
12:00	昼食<レストラン>	7:30	朝食<カートンドック>
13:00	写真立て材料集め(雨天中止)	8:30	テント撤収
13:30	チャレンジ1「テント設営」	9:30	チャレンジ4「写真立て作り」 ・自然物で工作
14:15	チャレンジ2「おかし作り」 ①チョコバナナぎょうざ ②焼きマシュマロ	11:30	ふり返りタイム
17:00	夕べのつどい	12:00	昼食<レストラン>
18:00	夕食<レストラン>	13:00	別れのつどい
19:00	星空観察(雨天のため ステラナビ鑑賞)	13:50	解散
19:30	入浴		
21:00	就寝		

9 事業運営について

本事業は、小学1年生のみを対象とし、友達との交流活動、自然体験活動を取り入れながら、基本的な生活習慣の定着を目的として実施することとした。

さらに同じ子供を2回集め、仲間意識の向上を図るため本事業を計画した。

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」の実施や食事及び寝具の準備、片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣の意識を高めるようにした。
- (2) 自然散策、自然物での工作等の自然体験活動を通して、自然と触れ合う喜びを味わえるようにした。
- (3) ふれあいタイムやテント設営、おかし作りを通して、友達と交流を深め、お互いの良さに気付かせ、協力することの大切さを学ばせるようにした。

10 事業の実際について

(1) 1回目の活動（6/15～6/16）

① ふれあいタイム

初めて出会う参加者が、緊張をほぐすことができるようにボランティアを中心に、各グループ円になり、自己紹介をさせた。また、1年生でも簡単にできる仲間作りゲームなどを行ったことで少しずつ親睦が深まっていった。

② 自然の家探検、草スキー、ヤシャブー作り

ヤシャブー作りで使う自然物を拾いながら、所内を探検した。班長を中心に並んで行動することができ、草スキーは初め怖がっていた子供も友達と一緒に滑り、楽しむことができた。また、自然探検で集めたヤシャブーシや自然物を使い、それぞれが創意工夫あるヤシャブーを作り上げていた。

③ フライングディスクゴルフ

沢遊びを予定していたが、前日までの雨のため川の水量が増加していたため、フライングディスクゴルフを実施した。説明を真剣に聞き、ルールを理解して、班の友達と楽しく活動することができた。

(2) 2回目の活動（1/25～1/26）

① テント設営

1月に延期になったため、寒さと朝露を考慮し、コミュニティルームに設置することとした。室内が狭いので、テントの骨組み等が友達に当たらないように指導した。職員やボランティアの手伝いをもらいながらではあったが、友達と話し合いながらテントを設置することができた。早速完成したテントの中に入って喜んでいた。

② おかし作り（チョコバナナぎょうざ・焼きマシュマロ）

ぎょうざやマシュマロを焼くときに火傷に注意するように指導を行った。バナナを切る際はプラスチックのナイフを使い、安全面に考慮した。また、餃子の皮を包む時は真剣な表情で取り組んでいた。自分で作ったお菓子の味は格別だったようで班の友達と笑顔で食べていた。

③ 写真立て作り

ダンボールと自然物を使った写真立て作りを行った。グループガンを使ったので、最初に注意点を指導し、各班のボランティアにも安全面に配慮するよう依頼した。それぞれお気に入りの作品が仕上がり、うれしそうに自分の作品を紹介する姿が見られた。6月の活動時の個人写真と今回の集合写真を配布し、今回出来上がった写真立て貼らせた。





11 参加者感想

～第1回目：子供の感想～

- 友達と仲よくできた。
- ヤシャブー作りが楽しかった。
- フライングディスクゴルフが楽しかった。
- ご飯がおいしかった。
- 寝るのが楽しかった。

～第2回目：子供の感想～

- 友達を作るのは楽しいと思った。
- 写真立て作りがおもしろかった。
- お友達が優しかった。
- カートンドックがおいしかった。
- 次、おおすみくん家のイベントがあったら、参加したい。
- 写真立ても上手にできたし、お友達もたくさんできた。

1回目の感想は、1年生になって2ヶ月しか経っていなかったもので、ボランティアと一緒に考えながら書く子がほとんどだった。当たり前ではあるが、アンケートの質問に対して具体的ではなく、「〇〇をどうした」「〇〇がどうだった。」という感想が多く、自分の思いなどが表現できていなかった。

入学から10ヶ月、前回から6ヶ月が経過し、2回目になると上記のように、自分の行動や気持ちをふり振り返りながら、より詳しく感想が書ける子が増えてきた。1回目、2回目と様々な体験活動を通して、自分自身のことをより深く考えることができるようになった。

12 成果

- 親元を離れた宿泊を伴う生活で不安や緊張を抱える中、各種体験活動や共同生活を体験することで基本的な生活習慣を身に付けるきっかけになり、様々なことへ自信が付いた子が増えた。
- 班付きボランティアと活動することで、安全面に考慮した活動ができた。
- おかし作りや自然物写真立て作りなど工夫を凝らした計画を実施し、普段と違う体験活動を味わうことができた。
- 班長を中心に整列したり、仕事を各係で分担することで一人一人に責任感が生まれ、より良い活動へとつながった。